

## 17日 水曜

### Ⅱ サムエル

19:1 そのようなときに、ヨアブに、「今、王は泣いて、アブサロムのために喪に服しておられる」という知らせがあった。

19:2 その日の勝利は、すべての兵たちの嘆きとなった。その日兵たちは、王が息子のために悲しんでいるということを知っていたからである。

19:3 兵たちはその日、まるで戦場から逃げて恥じている兵がこっそり帰るように、町にこっそり帰って来た。

19:4 王は顔をおおい、大声で、「わが子アブサロム、アブサロムよ。わが子よ、わが子よ」と叫んでいた。

19:5 ヨアブは王の家に来て言った。「今日あなたをいのちと、あなたの息子、娘たちのいのち、そして妻や側女たちのいのちを救ってくれたあなたの家来たち全員に、あなたは今日、恥をかかせられました。

19:6 あなたは、あなたを憎む者を愛し、あなたを愛する者を憎まれるからです。あなたは今日、隊長たちも家来たちも、あなたにとって取るに足りないものであることを明らかにされました。今、私は知りました。もしアブサロムが生き、われわれがみな今日死んだら、それはあなたの目になつたのでしょうか。

19:7 さあ今、立って外に行き、あなたの家来たちの心に語ってください。私は【主】によって誓います。あなたが外においでにならなければ、今夜、だれ一人あなたのそばにとどまらないでしょう。そうなれば、そのわざわいは、あなたの幼いころから今に至るまであなたに降りかかった、どんなわざわいよ



りもひどいものとなるでしょう。」

19:8 王は立って、門のところに座った。人々はすべての兵たちに「見なさい。王は門のところに座っておられる」と知らせた。兵たちはみな王の前にやって来た。一方、イスラエルは、それぞれ自分たちの天幕に逃げ帰っていた。

ヨアブにはダビデへの同情心がないという註解者もいます。確かにその通りでもあります。一方ダビデもまた自分の子どもへの反逆に対して、命がけで戦った兵士たちに対する労いや感謝の思いを持つ余裕がなくなっていました。

これらは限界ある人間にとってはしょうがないものですが、神のみわざを担う者は、そのような中でも神様のあわれみと助けによって、苦しくとも使命を果たさなければなりません。

私たちは大きな役割を担い、役に立つためには主のあわれみを求める必要があります。

ダビデは苦しみの中でも、心を奮い立たせて民の前に出て、彼らを励ました。そのような断腸の思いをも主はご存知です。心を奮い立たせる必要があるとき、主の力と憐れみを求めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

